豊川市議会傍聴記 ㊤

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

試行錯誤の地方創生戦略

豊川市議会も6人の新人議員が最前列に並び、新鮮な風が吹く中、10日から一般質問が始まり、19人が今季初の一般質問に登壇した。

◎地域創生戦略

トップバッターは23人の最大会派となった「とよかわ未来」の代表、野本逸郎氏。舞台は整い、今秋の市長選への山脇実市長の出馬表明がなされ、報道されている通りだ。

その前に野本氏は豊川版地方創生総合戦略の策定体制について聞いた。企画部長は新たな組織体制でなく既設置の行政改革審議会、行政経営改革推進本部で作業を進めていくとした。

具体的な総合戦略については、人口減少対策については、すでに取り組んできた経過もあり、「これ以上の新規性、自立性を求められてもなかなか難しい」という本音も語られた。

◎統一選総括

太田直人氏（とよかわ未来）は統一選を総括し、投票率アップのために期日前投票所の増設を提案し、総務部長は「今後、選挙管理委員会の中で次期統一選をめどに議論していく」とした。

太田氏はその根拠に豊橋市の1996年の市長選と4年後の期日前投票所が増設された市長選との比較で有効性を主張したが、その4年後の同選挙では過去最低の投票率であったことや、同じ体制で行われた今年の同市の市議選投票率も過去最低を記録しており、期日前投票所の増設が決め手にはならないのではないか。

◎介護予防事業

大野良彦氏（とよかわ未来）は介護予防事業に関する国の指針に照らし、豊川市の成果は参加者が10分の1、事業費も10分の1程度で活用が不十分であるとの一年前の定例会での指摘が、どのように改善されてきたかと迫った。

「なぜ売れないのかとスーパーの店長に聞くと、お客が来ないからですと答えているようなものだ。お客をいかに増やすかが〝仕事〟だ」と工夫と努力を迫ったが、説得力があった。

◎地域公共交通

コミュニティバスは真に効果的な施策なのかと問題提起したのは倉橋英樹氏（一人会派）。

2010年11月から基幹6路線、地域3路線で運行を開始し、利用者数は年々増加してきているが、1人当たりの輸送コスト全路線平均は995円となり、最低は一宮地域路線541円、最高は御津地区地域路線で2088円であることなどを市民部長は答えた。

倉橋氏は利用者の要望に応じて動くオンデマンドバスの運行や蒲郡市が行っている高齢者割引タクシー制度などを提案し、バスにとらわれない柔軟な取り組みを要請した。

「人は足から老いる」というが、「地方の足はまちづくりの生命線」である。

◎不妊症治療

不妊症については10組に1組の夫婦が悩み、助成制度があるものの高額な費用負担を強いられる不妊症治療について質問したのは早川喬俊氏（とよかわ未来）。

市では、一般不妊治療（体外受精、顕微授精を除く、ホルモン治療や人工授精など）の費用の一部を助成しているが、県内自治体には豊川市の上限とする5万円を超えて助成しているところや所得制限を設けていない自治体もあり、拡充を求めた。

男性議員がこうした課題に真正面から議論する姿勢は好感が持てた。

◎指定管理者制度

堀内重佳氏（とよかわ未来）は12年目を迎えた指定管理者制度について評価方法や今後の課題と方策について聞いた。

特に3年後から始まる公会計制度にあわせ固定資産台帳を整備して、同制度をマネジメントしていくことの重要性を指摘したが、公共施設の老朽化、長寿命化が大きな政策課題になってきている背景もあり、このことについての議論を深めてほしかった。

◎市民病院

市民病院の新築移転から2年以上が経過し、患者満足度の向上について柴田輝明氏（とよかわ未来）が質問した。

特に予約なしの初診患者の待ち時間や、退院、転院を進められることなどに不満が見られる傾向があり、これには県内公立病院の中でも外来患者数が多いという背景がある中で、同病院は急性期・救急医療機関の役割を果たし、地域完結型医療をめざし病診連携体制を強化していることなどをもっと情報発信すべきだと求めた。